

71. 解答 b

- a. 正：deep attenuation.高度脂肪肝で見られる。
- b. 誤：血管壁は不明瞭化する（vascular blurring）。
- c. 正：区域性脂肪浸潤。
- d. 正：多発性小結節状脂肪沈着では腫瘍性病変と鑑別を要する。
- e. 正：胆嚢床は限局的に脂肪化を欠くことがある（focal spared area）。

72. 解答 e

- a. 正：MALT リンパ腫を含めると胃原発が最も多い。
- b. 正：悪性リンパ腫は一般的に FDG-PET で高集積を示す。ただし、MALT リンパ腫では集積しないものもある。
- c. 正：小腸造影では動脈瘤様拡張（aneurysmal dilatation）が典型的所見とされる。
- d. 正：悪性の粘膜下腫瘍のなかでは最も頻度が高い。
- e. 誤：Barrett 食道には腺癌の合併頻度が高い。

73. 解答 a

- a. 誤：腸壁ヘルニアとも呼ばれ、ヘルニアが浅いので症状が軽微なことがあり、画像上も捉えにくく診断が遅れることが多い。
- b. 正：閉鎖管を経て臓器が骨盤外へ逸脱するヘルニア。嵌頓することが多い。
- c. 正：外側鼠径窩、内鼠径輪、鼠径管を経て、外鼠径輪から皮下に脱出し、陰嚢、大陰唇方向へ向かう。
- d. 正：腹腔臓器が大腿輪、大腿管、伏在裂孔を通過して大腿部皮下に脱出する。下腹壁静脈が圧迫を受けやすいかどうか不明だが、a が明らかに誤りであるので、正しい？
- e. 正：内側鼠径窩から外鼠径輪を経て皮下に脱出する。

74. 解答 a、b

- a. 正：排泄されずに長時間腸内に残っているとだんだん硬くなり、より排泄しにくくなる。
- b. 正：高齢者、嚥下困難、喘息患者等の経口投与には注意が必要。
- c. 誤：まれに（0.1%未満）蕁麻疹が出ることもある。
- d. 誤：まれに（0.1%未満）腸閉塞を起こすことがある。
- e. 誤：まれに（0.1%未満）にショックになることがある。

75. 解答 a、e

- a. 正：腫瘍周囲に偽被膜を伴うことが多い。
- b. 誤：集合管癌。管状発育を主体とし、しばしば乳頭状構造が混在する。
- c. 誤：原発性はまれで、ほとんどが血行性転移か後腹膜リンパ節からの直接浸潤。造影で均一な弱い染まりが見られる。
- d. 誤：脂肪成分がほとんど見られないものもある。超音波では腫瘍周囲に低エコー帯（halo）が見られないことが腎細胞癌との鑑別点とされる。
- e. 正：中心瘢痕が特徴的所見とされている。偽被膜を持つことがある。

以上、解答 71～75 は木村 成秀会員（香川大学医学部附属病院）